

令和7年度 第3回奈良市社会教育委員会議 会議録

| | | | |
|---|--|--|-----------|
| 開催日時 | 令和8年3月4日（水）午後3時00分～午後4時00分 | | |
| 開催場所 | 奈良市役所 北棟4階 402会議室 | | |
| 出席者 | 委員 | 岡田和委員、岡田龍委員、加藤委員、紙家委員、小北委員、柴田委員、中村委員、能島委員【計8人出席】 | |
| | 事務局 | 教育長、教育部長、教育部次長、地域教育課長、地域教育課 課長補佐、奈良市生涯学習財団事務局長 | |
| 開催形態 | 公開（傍聴人1人） | 担当課 | 教育部 地域教育課 |
| 議題又は案件 | (1) 正・副会議長の選出について (2) 令和7年度大会等参加報告について (3) 奈良市社会教育推進計画の改訂について (4) その他 | | |
| 議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等 | | | |
| <p>(1) 正・副会議長の選出について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議長に岡田（龍）委員が指名され、承認された。 ・副会議長に小北委員が指名され、承認された。 <p>(2) 令和7年度大会等参加報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県社会教育研究大会報告 ・全国社会教育研究大会（岩手大会）報告 <p>(3) 奈良市社会教育推進計画の改訂について</p> <p><事務局より前回までの振り返り及び資料の説明></p> <p><令和8年4月頃アンケートを実施する旨説明></p> <p>【委員からの意見・質問等】</p> <p>（「人を育てる」ではなく「人が育っていく」仕組みづくり）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まなび」が「ささえあい」に直結しないとまなぶ意味がないと誤解されないか懸念がある。 <p>⇒すべての事業が「ささえあい」に直結しないといけない訳ではない。ただまなびから社会課題の解決につながるよう働きかけていきたいと思っており、そのためには、地域にまなぶ場をつくるコーディネーター的存在や、つながった関係性が継続し育てる存在が育ち、まなびが循環することが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろんなまなんでいることが、地域課題にぶつかったときに、まなびの中から一步踏み出せる存在が育つことをめざすということだろう。 ・人を育てるのは誰がするのか。 <p>⇒市では人を育てる事業を各種展開しているが、事業に対して社会教育委員から社会教育的観点での助言をいただいた上で、事業担当課が働きかけていく姿を描いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人を育てる」という表現は一方通行な教育という誤解を招くため、「まなびの成果をまちづくりや地域課題解決に活かせるような人が育っていく仕組みづくり」の方がよいのではないか。 ・社会教育は教育的働きかけであり、市が税金を投じて事業を展開する限りは、社会課題を解決するような人を育てたいという意図を持って働きかけ機会を提供していくことは必要 | | | |

である。ただどのようにプロセスを重視した評価をするかが難しい。

- ・教える側、まなぶ側に分かれる一方通行の教育ではなく、ささえる側もささえることでまなぶという、すべてはまなびにつながっていく。どの立場にあっても、まなびがあるべきだ。市が事業を展開する時も、事業がうまくいかなくてもそこから市もまなべる。共にまなび合い育っていく「共育（きょういく）」という視点が大切である。
- ・教育はまなびを支援する活動である。

⇒互いにまなんでいく環境づくりという方向で修正する。

(学校教育と社会教育の連動の可能性)

- ・資料の「社会教育の拠点である公民館活動を通じて地域で暮らす住民自身がまなんだことを地域課題解決に活かしていけるように支援する（略）地域の子どものための教育活動の充実や地域コミュニティの活性化を目指す地域教育協議会等」という表現に賛同する。地域の方から小学生、中学生でまちづくり協議会みたいなのができないかといった意見が出てきた。公民館の役割の1つとして、何か目玉のようなわかりやすい取り組みをしたら、市民にもわかりやすいのではないかと。「子どもが主体で考えるまちづくり」にもなればよい。うまく学校教育と連動して、学校ではできないけど子どもたちはしてみたいことなどを主体的にしていこうとすることで人が育つ部分もあるのではないかとと思う。

(公民館の割合が大きくなりすぎることへの懸念)

- ・社会教育推進計画が全般的に公民館の言及が多く、公民館の計画のように見えてしまう印象を受けた。社会教育の中で公民館の割合が大きくなりすぎると、公民館につられて社会教育そのものが縮小するのではないかと危惧している。奈良市は奈良市生涯学習財団があることが非常に特徴的だとあったが、実際の報告をお聞きする範囲では、財団が全国的にも優れた又は先進的な取り組みをしているようには思えないので、財団を含めて公民館に注力することが社会教育全体として考えたときには良いのかについては、議論の余地があると思う。
- ・公民館がなくなったから社会教育がなくなるという訳ではない。せっかく公民館があるのだから中核になってほしいと思って、本日奈良市生涯学習財団との懇談会を実施した。公民館ありきではなく、公民館をよりよくしていくことが必要だと思う。

⇒社会教育は一般的には文化的振興やスポーツ振興等もあるが、奈良市ではそれぞれ所管課があり、それぞれ別の振興計画がある状態である一方、公民館だけの計画はない状態である。公民館は様々な分野を網羅し凝縮していることもあり、この社会教育推進計画ではまなぶことについて更に一步イメージできればと思っている。また公民館以外にも、図書館や文化財施設もある中で、関連する事業すべてを計画に入れるより、いくつか重点事業を絞ることで深くご意見いただけるのではないかと考えている。

- ・総合計画を鑑みて社会教育推進計画を作成するため改訂年を一年延長したが、総合計画の審議の中で数名の委員から、各分野にキーパーソンがいるが高齢化しており、次の担い手がないので先行きがどうなるか心配する声があった中で、大人の教育やそういう大人になっていくための子供の頃からの教育が必要との社会教育の重要性についてご意見があった。

⇒審議内容を踏まえて社会教育の表現の仕方を修正する。社会教育の表現内容をどのように各事業や評価に反映させていくのかについて議論したい。次年度中の計画改訂に向けて、書面やオンラインなども含めて柔軟に対応していきたい。

- ・素案の1章、2章はおおよそこの内容で良いか。(委員から異議なし)

| | |
|----|--|
| 資料 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度第3回奈良市社会教育委員会議次第 ・奈良市社会教育委員名簿 ・資料1～3 |
|----|--|